（様式１）

令和２年度学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第三小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	・人との関わりの中で、多様な考えや価値観に触れ、互いを認め合ったり、思いや考えを広げ、深め合ったりすることができる授業を目指す。	最終評価	・校内研究で特別活動の研究を４年間行ったことで、話合いの仕方が身に付き、どの教科においても話合いによって考えを広げたり深めたりすることにつながった。コロナ禍で、例年よりも話合い活動や異学年交流等が制限されたが、「新しい学校生活」を送る中でもよりよい学校生活にしようと工夫する姿が見られ、子どもたちの思いや願いが話合いを通して具体化され実現されていった。
環境作り		・各教室の板書掲示を統一することで、全校の学習の流れを定着させる。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、どの児童にもわかりやすく、集中できるような環境づくりを行う。		・「めあて」をもって学習に臨み、「ふりかえり」をして次時につなげていくという学習の流れがどの教科でも定着し、児童自身が見通しをもって学習に取り組むことができるようになった。 ・ICT を教師も児童も活用することが、児童の関心・意欲を高めたり、学習理解を深めたりすることにつながった。来年度、一人一台タブレットを使用することができるので、情報教育部を新設し、e ライブラリの活用をはじめとして、有効的な活用の仕方をさらに考え、学校全体で共有していきたい。

■　学年の取組内容

学年	教科	令和元年度の定着度調査（１学年を除く）や６月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての児童の課題	改善のための取組	追加する取組等（12 月）	年度末の取組評価（２月）
1	国語	学「話すこと・聞くこと」について、話し方・聞き方の基本的なルールを確認している。 学　場面に応じた、丁寧な話し方について理解している。 学平仮名の読み書きについては、およそ８割の児童が習得している。片仮名の読み書きについては、理解が十分ではなく、適切に使えていない様子が見られる。	・落ち着いて話を聞くことができない児童が数名見られる。 ・片仮名や新出漢字については、読み書きともに習得できていない児童が見られる。 ・「は」「を」「へ」などの助詞についての理解が十分ではなく、文章の中で適切に使えていない。	【年間計画・単元レベル】 ・年間を通して「話すこと・聞くこと」についての基本的なルールを指導する。また、教室掲示を工夫し、常に児童自身が意識できるようにする。 【１単位時間レベル】 ・つながりのある文や文章の書き方を指導する。 【その他の日常的な取組】 ・正しい言葉遣いで話すことができるよう、教師が手本となる話し方をしていく。 ・定期的に片仮名や既習漢字の復習を行う。	【年間計画・単元レベル】 ・相手意識をもって話すことができるように継続して指導する。 【１単位時間レベル】 ・自分の書いた文や文章の読み直しをさせる。 【その他の日常的な取組】 ・家庭学習として、「先生あのね作文」に取り組ませる。	【年間計画・単元レベル】 ・９割の児童が、相手や場面に応じた言葉遣いや声の大きさなど、相手意識をもって話すことができるようになった。話の聞き方については８割以上の児童には定着してきているが、落ち着いて最後まで聞くことに課題が残る。 【１単位時間レベル】 ・平仮名や片仮名、既習漢字の復習を定期的に行ったため、文の中で正しく使うことができる児童が増えた。 【その他の日常的な取組】 ・家庭学習として「先生あのね作文」に取り組み、書くことに慣れさせてきた。継続して文章の書き方を指導してきたため、つながりのある文章を書くことができる児童が増えた。
	算数	学１０以内の加法・減法については、ほとんどの児童が理解できている。	・１０の合成・分解の理解が不十分な児童が見られる。 ・繰り上がりのある加法についての技能の習得が不十分な児童が数名いる。 ・「何時」「何時半」など時刻の読み取りに課題がある。	【年間計画・単元レベル】 ・授業の中で算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動や絵や図などを使って視覚的に理解できる掲示を計画的に取り入れる。 【１単位時間レベル】 ・基礎的・基本的な計算練習を繰り返し行い、習得を図る。 【その他の日常的な取組】 ・学校生活の中で児童に時刻を尋ねたり見させたりして、時刻を読み取らせることを意識的に行う。	【年間計画・単元レベル】 ・問題場面を絵や図で示し、問題場面を把握するための一助とする。 【１単位時間レベル】 ・基礎的・基本的な計算練習に継続して取り組ませる。 【その他の日常的な取組】 ・時刻の読み取りについては、日常的に意識させることに加えて、問題演習を行っていく。	【年間計画・単元レベル】 ・半具体物や図を使った学習を意識的に行ったため、９割以上の児童が問題場面の把握や繰り上がり、繰り下がりの計算についての理解が進んだ。理解に時間のかかる児童については個別に対応を行った。 【１単位時間レベル】 ・授業や家庭学習などで、定期的に計算練習を行ったため、計算力が高まった。 【その他の日常的な取組】 ・「何人目」、「前から何人」について日常的に使ってきたため、８割以上の児童が理解することができた。 ・時刻の読み取りについては、復習週間を設定し、問題演習を繰り返す中で定着を図った。
2	国語	学「話すこと・聞くこと」について、話し方・聞き方の基本的なルールを確認している。 学平仮名及び片仮名の読み書きについては、ほぼ全ての児童が習得しているが、文や文章の中で適切に使えない様子が見られる。また、これまでに習った漢字の習得は不十分で、習った漢字を使って文章を書く習慣が身に付いていない。 学新出漢字については、興味をもって習得しようとする意欲がある。	・大事なことを聞き落とさないようにしながら、最後まで集中して話を聞くことに課題がある。 ・語と語や文と文との続き方に注意して、つながりのある文章を書く経験が少ない。また、語彙力が乏しいため、できごとを具体的に書いたり、気持ちを書き表したりすることが苦手な児童が多くみられる。	【年間計画・単元レベル】 ・年間を通して「話すこと・聞くこと」についての基本的なルールを指導する。また、掲示物を用意し、常に児童が意識できるようにしたり、事柄の順序を意識して詳しく話すことができるようにしたりする。 【１単位時間レベル】 ・国語科以外の学習や日常生活においても、つながりのある文や文章の書き方を指導する。 【その他の日常的な取組】 ・児童との日常的なやりとりの中で、「言葉」を大切にし、正しい言葉遣いを身に付けさせると共に、語彙を広げられるようにする。日常的に既習漢字を使うことを意識させていく。	【年間計画・単元レベル】 ・「話すこと・聞くこと」についての基本的なルールは身に付きつつある。相手の話の内容に対して質問したり、意見を言ったりする練習をしている。 【１単位時間レベル】 ・国語科以外の学習や日常生活においては、生活科の「見つけたよカード」や学習の振り返りなどを通して、つながりのある文や文章の書き方の指導を継続している。 【その他の日常的な取組】 ・新出漢字を学習する際には、語彙を広げられるようにその漢字を使った言葉を発表させている。また、平仮名や片仮名の読み書き、既習漢字を中心に復習するようにしている。	【年間計画・単元レベル】 ・「話すこと・聞くこと」についての基本的なルールは身に付けることができた。相手の話の内容に対して質問したり、意見を言ったりすることもできるようになった。 【１単位時間レベル】 ・文章を書く力は全体的には向上したが、個人差がある。 ・つなぎ言葉などの復習を繰り返し行うことで、定着を図った。 【その他の日常的な取組】 ・既習漢字を普段から活用することを意識させ、定着を図った。日常であまり使わない漢字に関しても復習を行い、９割以上の児童が身に付けることができた。

	算数	学１０以内の加法・減法については、ほぼすべての児童が理解できているが、定着が不十分な児童もいる。 学問題を把握する力が不十分で、立式することが困難な児童もいる。	・繰り上がりや繰り下がりのある加法・減法の計算についての理解が不十分である。 ・文章問題を読んで理解し、立式することに課題がある。また、なぜその立式ができるのかを説明する経験が少なく、表現方法が身に付いていない。	【年間計画・単元レベル】 ・授業の中で算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れる。 【１単位時間レベル】 ・文章問題において、「わかっていること」と「求めていること」を確実におさえ、何を問われているのかを理解できるように支援する。 ・自分の考えを書く時間や、それを共有する時間を設けることで、考え方を表現する方法を身に付けさせる。 【その他の日常的な取組】 ・計算ドリルや東京ベーシック・ドリルを活用し、基本的な計算練習を繰り返し行い、計算力を高める。	【年間計画・単元レベル】 ・授業の中で半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れることで、図に表すことができるようになり、立式に生かせるようになってきた。 【１単位時間レベル】 ・文章問題において、「分かっていること」と「求めていること」に印をつけながら問題に取り組むようにした。また、かけ算においては図を使って考え方を整理することで、立式の手立てとなるようにした。 【その他の日常的な取組】 ・計算ドリルや東京ベーシック・ドリル、かけ算九九カードを活用することで、基礎的な計算力を高める練習をしている。	【年間計画・単元レベル】 ・図を使って考えを表すことができるようになり、立式に生かすことができるようになった。立式が苦手な児童に対しては、図を提示することで、立式することができるようになった。 【１単位時間レベル】 ・「分かっていること」や「求めていること」に気を付けて問題に取り組むことで、立式に生かすことができた。かけ算では意味を理解することにも重点をおいて取り組み、理解の定着を図ることができた。 【その他の日常的な取組】 ・繰り返し既習事項の復習を行うことで、９割以上の児童が、かけ算九九をマスターすることができた。
３	国語	調教科全体の正答率は８２．５％と，全国を０．７ポイント，新宿区を２．１ポイント下回っている。 調領域別正答率はすべて全国を上回っているが，新宿区と比較すると，「話す・聞くこと」では０．５ポイント，「読むこと」では６．０ポイント，「言語事項」では１．４ポイント下回っている。 調四分位分布から A，B，D 層は新宿区平均より下回っているが、C 層は新宿区平均の２倍となっている。 学授業における取組状況を見ると、意欲的に取り組む児童が多い。特に漢字の学習や音読の学習に意欲的である。しかし、ワークテストや漢字小テストの状況を見ると、十分に定着していない児童もいる。	・「書くこと」の領域では，全国平均，新宿区平均ともに上回っているが，その他の領域では下回っているため、指導の改善や工夫が必要である。 ・「読むこと」では新宿区の正答率を６．０ポイント下回っている。音読指導・読書指導で興味・関心を高め，読解力が付くような支援や指導の工夫が必要である。 ・「言語事項」の領域，観点では全国、区を下回っているため、漢字の読み書きや，言葉の特徴やきまりについての理解に課題がある児童の底上げを図る必要がある。	【年間計画・単元レベル】 ・「読むこと」の単元は，ほかの領域よりも時間を多めに設定し，丁寧に指導していく。物語文では、興味をもったところから，自分の考えを形成することを重点的に行う。説明文では，文章全体の組み立て方や、本文中の叙述を根拠にした感想をもつ学習を重点的に行う。 ・「言語事項」の習得に関しては、既習漢字は必ず使うことを意識させるとともに，きちんと書くことを意識させ，反復練習で習得を徹底していく。 【１単位時間レベル】 ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・ＩＣＴ機器を積極的に活用し、教材文の大事な言葉や児童のノートなどを示して視覚化を図り，学習の理解を深められるようにする。 【その他の日常的な取組】 ・「漢字の読み書き」「言葉の特徴やきまり」について習熟を図るため，週に１回程度の小テストを実施する。 ・学校図書館支援員などとも協力し，読書活動を推進する。	【年間計画・単元レベル】 ・「読むこと」の単元は，ほかの領域よりも時間を多めに設定し，丁寧に指導していく。物語文では、興味をもったところから，自分の考えを形成することを重点的に行う。説明文では，文章全体の組み立て方や、本文中の叙述を根拠にした感想をもつ学習を重点的に行う。「話す・聞くこと」の単元は，話の中心が明確となるように、相手意識をもたせて、順序立てた内容を伝えられるような学習を重点的に取り入れる。 ・「言語事項」の習得に関しては、反復練習で習得を徹底し、小テストで自己評価を取り入れながら個々の練習量を調整していく。また、既習漢字は必ず使うことを意識させるとともに，とめやはらいなどをきちんと書くことを意識させていく。 【１単位時間レベル】 ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開し、授業の終わりには、ねらいが達成できたかどうかの確認をする。 ・ＩＣＴ機器を積極的に活用し、教材文の大事な言葉や児童のノートなどを示して視覚化を図り，学習の理解を深められるようにする。 【その他の日常的な取組】 ・朝の学習時間を活用して、漢字の読み書きの習熟を図るために、新出漢字や既習漢字の練習時間を確保し実施する。 ・単元に関連した図書の選出を学校図書館支援員などとも協力しながら、並行読書など幅広い読書活動を推進する。	【年間計画・単元レベル】 ・「読むこと」の単元は、登場人物の心情の変化や場面の様子などを整理しながら、学習の理解を深めることができた。説明文では段落ごとの構成に着目して整理することができるようになってきているが、説明文を書く学習ではまだ構成を意識して書けるまでにはなっていない。 ・「話す・聞くこと」の単元は，相手意識をもち原稿を考えたり、話したりすることができた。 ・「言語事項」の習得に関しては小テストをスモールステップで習熟させたが、文中で使用できるまでには定着できていない。 【１単位時間レベル】 ・毎時間ねらいを明確にした授業を展開し、学習のめあてが達成できたかを振り返らせた。 ・ＩＣＴ機器を積極的に活用し、例文などを提示して、学習の理解を深める一助とした。 【その他の日常的な取組】 ・反復練習の時間を毎日とることで、漢字の読み書きに慣れさせることができた。 ・学校図書館支援員などと協力し、児童に様々な分野の本を紹介することができ、並行読書をしたり長い物語を読んだりすることができるようになった。

	算数	調教科全体の正答率は，７３．６％と全国を３．０ポイント、区を４．５ポイント下回っている。観点別では「関心・意欲・態度」のみ，新宿区を０．１ポイント下回っている。 調全領域において全国，区を下回っている。 調四分位分布では，A層（３０．５％）とC層（３７．３％）が新宿区を上回っている。 学授業における取組状況を見ると、意欲的に問題に取り組んだり、自分の考えを発表したりする児童が多い。しかし、計算力や、文章問題を自力解決する力においては、個人差が開きつつある。	・算数に対する苦手意識をもっている児童がいる。児童が意欲や自信をもって取り組めるよう，教材の工夫や，授業展開の工夫が必要である。 ・D層の底上げを中心に，学力下位層の底上げと習熟度に応じた指導が必要である。 ・集中力の持続と根気よく取り組む姿勢や，最後まで正確に問題を読み取る指導が必要である。	【年間計画・単元レベル】 ・年間を通じて，レディネステストなどで単元ごとの児童の実態を正確に把握し，習熟度別による適正なクラス分けを行い，効果的な個別指導が行き届くようにする。 ・習熟度別指導，特にＤ層の児童については，基礎的基本的な学習内容の指導を徹底する。 【１単位時間レベル】 ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・習熟度に合わせて，教材を用意する。 ・ＩＣＴ機器を積極的に活用して視覚化を図り，学習意欲の維持や思考の整理の手助けを行う。 【その他の日常的な取組】 ・かけ算やくり上がり，くり下がりのある計算など，基礎的な計算問題に継続して取り組ませ，計算力の向上を図る。 ・計算ドリルの宿題だけでなく，プリントの宿題を出すことで，児童が算数に取り組む機会を多くする。	【年間計画・単元レベル】 ・単元ごとに適正なクラス分けを行い、個別指導が行き届くよう努めている。 ・習熟度別指導や宿題、放課後学習により、Ｃ層Ｄ層の児童に基礎的・基本的な学習内容が定着するよう努めている。 【１単位時間レベル】 ・毎時間、その授業のめあてを明確にして、「何を学ぶのか」を意識できるようにしている。また、授業の終わりには、めあてを達成できたか振り返りを行うことで、よりめあてを意識できるようにしている。 ・習熟の進度が速い児童には追加教材を用意したり、進度がゆっくりな児童には課題を選別して提示したりしている。 ・ＩＣＴ機器を積極的に活用することで、児童の意欲向上や、思考の整理、発表への自信などにつながっている。 【その他の日常的な取組】 ・毎日継続して既習事項に関する宿題を出すことで、単元の定着度の向上に努めている。 ・習熟が不十分な児童には、休み時間や放課後等に個別対応を行っている。	【年間計画・単元レベル】 ・年間を通じて，レディネステストを実施したことで適正なクラス分けを行うことができ，効果的な個別指導が実施できた。 ・Ｄ層の児童については、特に少人数指導をすることで，つまずきに合わせた指導を行うことができた。 【１単位時間レベル】 ・毎時間ねらいを明確にした授業を展開し、学習めあてが達成できたかを振り返らせた。 ・ＩＣＴ機器やデジタル教科書を積極的に活用することによって、図形や作図などの学習を分かりやすく進めることができた。 【その他の日常的な取組】 ・学習内容をドリルやプリントで反復練習することで、定着度やつまずきを確認でき、個別指導で対応することができた。
４	**国語**	調教科全体の正答率は７４．０％と，全国を１．６ポイント，上回っている。 調領域別正答率は概ね全国を上回っているが，新宿区と比較すると，「話す・聞くこと」では４．７ポイント，「読むこと」では６．４ポイント下回っている。 調四分位分布からＡ・Ｂ層は６７．３％，Ｃ・Ｄ層は３２．７％であるが、Ｄ層は新宿区より４．１ポイント上回っている。 学授業における取組状況を見ると、意欲的に取り組む児童が多い。特に漢字の学習や音読の学習に意欲的である。しかし、ワークテストや漢字小テストの状況を見ると、十分に定着していない児童もいる。	・「話す・聞くこと」「読むこと」の領域では全国・区ともに下回っている。区平均より「話す・聞くこと」では４．７ポイント、「読むこと」では６．４ポイントと大きく下回っている。指導の改善や工夫が必要である。 ・正答率５０％未満の児童が全体の１割程度おり、これらの児童の底上げを図っていく必要がある。 ・「話す・聞く能力」では授業の様子から、大事なことを落とさないようにしながら、最後まで話を聞くことに課題がある。そのため、聞くときの観点を示したり、グループで話をする際に、話し合いの最終目標を示したりする。また、相手意識をもち、自分の意見や思いが伝わるような話し方を習得させる必要がある。	【年間計画・単元レベル】 ・「話すこと・聞くこと」の単元は、話し合う目的と進め方を明確に示し、立場を明らかにして話したり、理由とともに自分の考えを述べたりさせる。 ・「読むこと」の単元では、物語文において、人物の行動や人柄を捉えながら読み、感想をもつ学習を重点的に行う。説明文では、文章全体の組み立て方や、本文中の叙述を根拠にし、自分の考えを形成する学習を重点的に行う。 【１単位時間レベル】 ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・どの領域の学習においても、「自分の考えをもつ」→「自分の考えを伝える（班・全体）」という活動を取り入れ、読み取ったことや感じたことを伝え合うようにさせる。 【その他の日常的な取組】 ・「漢字の読み書き」について習熟を図るため、週に１回程度の小テストを実施する。 ・読書活動を推進し、文章に触れる機会を多くする。文学的文章や説明的文章を随時紹介し、学習した単元と関連した本に触れさせるようにする。	【年間計画・単元レベル】 ・「話すこと・聞くこと」の単元や他の領域においても、立場を明らかにして話したり、理由とともに自分の考えを述べたりさせている。 ・「読むこと」の単元の時間を多めに設定している。特に物語文では、人物の行動や人柄を捉えながら読み、感想をもつ学習を重点的に行うことができている。説明文では、文章全体の組み立て方や、本文中の叙述を根拠にし、自分の考えを形成する学習を重点的に行うことができている。今後も継続していく。 【１単位時間レベル】 ・毎時間、めあてを明確にして授業を進めているので、児童もめあてに即した振り返りができるようになってきている。 ・領域に限らず、「自分の考えをもつ」→「自分の考えを伝える（全体）」という活動を取り入れ、読み取ったことや感じたことを伝え合うようにしてきている。今後は話題に沿った話合いの仕方や相手への伝え方を意識した伝え合いを行うようにする。 【その他の日常的な取組】 ・週に１度行っている漢字小テストにおける漢字の定着率はおよそ８０％である。 ・単元での学習に加え、図書の時間を確保し、毎週、本に触れる機会を設けている。様々な本に興味・関心をもって読書を続けている児童が多い。	【年間計画・単元レベル】 ・「読むこと」の単元の時間を多めに設定したことで、物語文では、人物の行動や人柄を捉えながら読み、感想をもつ学習を重点的に行うことができた。説明文では、文章全体の組み立て方や、本文中の叙述を根拠にし、自分の考えを形成する学習を重点的に行うことができた。 【１単位時間レベル】 ・毎時間、めあてを明確にして授業を進めた。児童もめあてに即した振り返りができるようになった。 ・領域に限らず、「自分の考えをもつ」→「自分の考えを伝える（ペア・全体）」という活動を取り入れたことで、読み取ったことや感じたことを伝え合う意識をもつようになった。 【その他の日常的な取組】 ・漢字小テストにおける漢字の定着率は年間を通しておよそ８０～８５％であった。 ・年間を通して読書活動を推進した。多くの本に興味をもって読書を続けている児童が多い。

	算数	調教科全体の正答率は７０.７％と、全国を０.３ポイント、上回っているが、新宿区と比べると4,5ポイント下回っている。 調領域別正答率は概ね全国を上回っているが、「図形」は1,2ポイント下回っている。また、新宿区と比較すると全て下回っている。特に「図形」は8,8ポイント下回っている。 調四分位分布からＡ・Ｂ層は、６３.６％、Ｃ・Ｄ層は３６.４％であるが、Ｄ層は新宿区より６.６％上回っている。 学授業における取組状況を見ると、意欲的に問題に取り組んだり、自分の考えを発表したりする児童が多い。一方で、Ｄ層の児童は学習に向かう基本的な態度面から見直しが必要である。	・「数と計算」「量と測定」「図形」いずれも新宿区と比較して３%以上下回っている。特に「図形」は８.８ポイントと大きく下回っており、具体物の操作を効果的に取り入れるなど指導の工夫や改善が必要である。 ・「大きな数」では位取り板を効果的に活用したり、「数直線」では一番小さい目盛りの大きさを正確に読む練習を積み重ねたりなど、基礎基本の確かな定着を図る必要がある。 ・Ｄ層の底上げを中心に，学力下位層の底上げと習熟度に応じた指導が必要である。 ・自力解決に粘り強く取り組んだり、文章問題を正確に読み取ったりする力を育てる指導が必要である。合わせて、読み取ったことを絵や図で表すこともできるようにする必要がある。	【年間計画・単元レベル】 ・レディネステストなどで児童の実態を正確に把握し、適切にクラスを分け、習熟度別学習の効果が発揮できるようにする。特にＤ層の児童は、基礎的基本的な学習内容を反復練習し、定着を図る。 【１単位時間レベル】 ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・習熟度に合わせて，教材を工夫する。 ・教科書の基本の問題を必ず解き、１時間に必ず丸を一つ以上付けられるようにすることで、学習意欲の維持と、基礎基本の定着を図る。また、自力解決の時間を十分に確保するとともに、友達同士考えや意見の交流する時間を設け、思考が広がるようにする。 【その他の日常的な取組】 ・計算ドリルの問題やプリント問題に繰り返し取り組ませることで、基礎基本の定着を図り、計算力の向上を目指す。	【年間計画・単元レベル】 ・単元ごとの児童の実態を正確に把握し、習熟度別による適正なクラス分けを行い効果的な個別指導が行き届くようにできている。今後も継続していく。 ・習熟度別指導で、習熟が不十分な学習内容の基礎的・基本的な復習をし、定着を図っている。 【１単位時間レベル】 ・毎時間、めあてを明確にしているので、めあてに即した振り返りを行うことができるようになった。 ・算数少人数担当教員を中心に、習熟度に合わせた教材を用意することができている。 ・図形や表など、多くの単元でＩＣＴ機器を積極的に活用し、視覚化を図っている。 ・児童同士が互いに学び合う活動を取り入れることができている。 【その他の日常的な取組】 ・計算ドリルやプリントで繰り返し学習を行い、基礎的な計算問題に継続して取り組ませて、苦手な学習内容が減るよう努めている。	【年間計画・単元レベル】 ・単元ごとに習熟度別による適正なクラス分けを継続して行ったことで、効果的な個別指導が行き届くようにすることができた。 ・習熟度別指導で、課題がある学習内容の基礎的・基本的な復習プリントを行い、定着を図った。 【１単位時間レベル】 ・毎時間、めあてに即した振り返りを行った。児童も学習の見通しがもてるようになり、振り返りもしっかりと行った。 ・習熟度に合わせて教材を用意したり、多くの単元でＩＣＴ機器を積極的に活用したりして、視覚化を図ったことで、児童の学習内容の理解が深まった。 ・児童同士が互いに学び合う活動を取り入れたことで、児童の学びをより深めることができた。 【その他の日常的な取組】 ・日常的に計算問題に取り組ませたことで、児童が基礎的な計算力を概ね身に付けることができた。 ・計算ドリルやプリントで繰り返し学習を行ったことで、児童の算数への苦手意識が全体的には緩和されつつある。
５	国語	調教科全体の正答率は７９．２%と，全国を３．８ポイント，上回っている。 調領域別正答率はすべて全国を上回っているが，区と比較すると，「読むこと」では３．４ポイント，「言語事項」では１．３ポイント下回っている。 調四分位分布からＡ・Ｂ層は６１．６%，であり、新宿区より３．２ポイント下回っている。Ｃ・Ｄ層は３８．３%であるが、Ｄ層は新宿区より３．１ポイント上回っている。 学授業における取組状況を見ると、意欲的に取り組む児童が多い。特に漢字の学習や音読の学習に意欲的である。しかし、ワークテストや漢字小テストの状況を見ると、十分に定着していない児童もいる。	・「読むこと」の領域においては、区の平均を３．４ポイント下回っているので、読むことへの苦手意識をなくし、自分の考えをもって表すことができるように、指導を工夫する。また、読書の習慣を身に付けさせられるように、本の紹介や読書の時間の設定等の手立てをとる。 ・「言語事項」においても、区の平均を１．３ポイント下回っているので、言語に関する指導を意図的、計画的に行い、文脈に沿って正しい漢字が使えるように理解を深めさせる。	【年間計画・単元レベル】 ・どの単元においても、導入を工夫することで児童の意欲を高める。また、児童の実態に適した最終活動を１時目で提示することで、見通しをもちながら学習に取り組めるようにする。 ・「読むこと」の単元は、他の領域よりも時間を多めに設定し、筆者の主張を読み取る時間や、友達と互いの考えを伝え合うことができるよう指導の工夫をする。 【１単位時間レベル】 ・児童に身に付けさせたい力や教師のねらいを確実にもち、児童にとって学習のめあてが明確である授業づくりに努める。 ・自分の考えをもち、考えたことを小グループで伝え合う時間を十分に設定し、読み取ったことや感じたことを伝え合うようにする。 【その他の日常的な取組】 ・漢字小テストを繰り返し行い、漢字の定着を図る。 ・自主学習などの宿題で継続的に読書活動を推進し、文章に触れる機会を多くする。また、読んだ本の要約や要旨をまとめたり、自分の考えや経験を絡めて感想を書いたりしながら、文章の構成や表現力を養う。	【年間計画・単元レベル】 ・単元の導入で最終活動や身に付けたい力、単元目標などを児童に明確に提示することで、見通しをもちながら学習を進めることができた。しかし、国語の学習に対して積極的になれなかったり苦手意識を抱いたりしている児童もいるため、導入や最終活動をさらに工夫することで児童の学習意欲を高めていく。 ・「読むこと」の単元の時間を多めに設定した。内容や要旨を把握することに重点を置き、書き手の立場に立ち、理解を深める学習に取り組んだ。物語文では、人物の行動や人柄を捉えながら読み、説明文では、文章全体の組み立て方や、本文中の叙述を根拠にし、自分の考えを形成する学習を行うことができている。今後も継続していく。 【１単位時間レベル】 ・毎時間、めあてを明確にした授業ができている。 ・多くの児童が、小グループで自分の考えを伝え合うことに慣れてきた。今後はさらに建設的な話し合いができるよう指導を継続していく。 【その他の日常的な取り組み】 ・小テストの取り組みによって漢字の定着を図ってきた。定着度には個人差があるため、今後も取り組みを工夫して学年全体の定着率を上げたい。 ・音読の課題を多くし、要約や要旨をまとめる学習を重視した。文章を正確に読み取り、自分の言葉も絡めて文章を書く力が付いてきている。今後も継続したい。	【年間計画・単元レベル】 ・単元の導入時に単元目標を児童に提示したことによって、目標を意識しながら見通しをもって学習を進めることができた。また、絵や図、短い言葉を用いて内容を表し、国語に苦手意識を感じている児童にも分かりやすい説明を意識した。 ・「書くこと」の学習では、教科書の例文を参考にしながら自分で文章を書くことを継続している。また、書いたものを互いに見せ合い、よいところを見付けたり、アドバイスを送ったりする機会を多く設けたことで、正しい文章の書き方を意識しながら意欲的に書くことができた。 【１単位時間レベル】 ・毎時間のめあてを、児童も意識しながら学習を進めることができた。 ・小グループの話合いでは、お互いの意見のよさにも気付きながら建設的に話し合いができるようになってきた。 【その他の日常的な取り組み】 ・定期的に漢字テストを実施し、前学期で習った漢字の復習も行った。小テストの得点が伸びた児童が増えた。 ・音読や視写の宿題を継続して行ったことにより、学習の内容の理解が深まった。 ・辞書を引く活動に日常的に取り組んだことで、自主的に辞書を活用する児童が増えた。

	算数	調教科全体の正答率は，７５．７％と全国を７．２ポイント、新宿区を１ポイント上回っている。 調領域別正答率は「図形」以外はすべて全国と区を上回っている。「図形」は全国と比べると２．３ポイント，区と比べると６．９ポイント下回っている。 調四分位分布では，Ａ・Ｂ層は７５％であり、区より３．７ポイント上回っている。C・D層は２５％であり、区を３・７ポイント下回っている。 学授業における取組状況を見ると、意欲的に問題に取り組んだり、自分の考えを発表したりする児童が多い。しかし、計算力や、文章問題を自力解決する力においては、個人差が開いている。	・「図形」において、分度器やコンパスなどを操作する場面を多く設定したり、比較・観察的活動を多く取り入れたりして、実感を伴った指導を増やしていく必要がある。 ・D層の底上げを中心に、学力下位層の底上げと習熟度に応じた指導が必要である。 ・児童が意欲や自信をもって取り組めるような指導の工夫が必要である。	【年間計画・単元レベル】 ・習熟度別指導で、特に正答率が７０％以下の児童については、基礎的基本的な学習内容の指導を徹底する。 【１単位時間レベル】 ・毎時間のめあてを明確にした授業を展開する。 ・特に、図形領域が苦手な傾向があるので、実寸大の模型を用意したり、ICT 機器を活用して図形を提示したりして、視覚的に分かりやすいように工夫する。また、実際に作図・観察させる活動を重点に置き、指導をしていく。 ・習熟度に合わせて教材を用意する。 ・児童の算数に対する意欲や自信を高めるために、ペアや小グループで自分の考えを伝え合う機会をつくり、児童同士が互いに学び合う活動を取り入れる。 【その他の日常的な取組】 ・計算ドリルの宿題だけでなく、プリントの宿題を出すことで、様々な問題に取り組ませ、既習内容の定着を図る。	【年間計画・単元レベル】 ・習熟度別指導で、前学年の学習内容や苦手な分野の復習を取り入れながら基礎的・基本的な学習の定着を図っている。 ・基礎的・基本的な学習内容を定着させるため、個人で思考する時間を十分に確保し、その後に友達と考えを交流するという学習形態にしたことで、多くの児童が主体的に取り組み、学習内容の理解が深まった。 【１単位時間レベル】 ・毎時間、めあてを明確にしてきたことで、めあてに沿った振り返りをしたり、自分の言葉でまとめを書いたりできるようになった。 ・ICT 機器を活用して視覚的に問題を捉えられるように工夫したり、実寸大の模型を用意したりして児童の理解を促した。今後も継続していく。 ・課題を早く終えた児童は、プリント学習や問題作りなどに取り組ませたことで、児童は集中力を途切れさせることなく積極的に学習に取り組んでいた。 【その他の日常的な取組】 ・毎日継続して既習事項に関する宿題を出すことで、単元の定着度の向上に努めている。 ・習熟が不十分な児童には、休み時間や放課後等に個別対応を行っている。	【年間計画・単元レベル】 ・習熟度別指導で、前学年の学習内容や苦手な分野の復習を取り入れながら基礎的・基本的な学習の定着を図り、理解を深めた。 ・基礎的・基本的な学習内容の定着のため、個人で思考する時間の確保と友達と考えを交流する学習形態を取り入れてきた。多くの児童が主体的に取り組み、個人の考えをもちながら学習に向かうことができ、学習内容の理解が深まった。 【１単位時間レベル】 ・めあてを明確にした授業を継続して行い、めあてに沿ったまとめや振り返りを自分の言葉で書くことができるようになった。 ・ＩＣＴ機器を活用し、教材の視覚化を図ることで、学習課題に対する児童の理解を深めることができた。 ・課題を早く終えた児童のために、習熟度別に合わせた教材プリントを用意したことで、集中力の持続や根気よく取り組む姿勢の向上が見られた。 【その他の日常的な取り組み】 ・日々の家庭学習では復習を中心に課題を出すことで単元ごとの学習内容の定着を図ることができた。 ・定期的に復習プリントを活用し、朝学習において、基礎的・基本的な学力の定着を図った。新しい単元でも既習内容を生かして問題に取り組むことができている。
６	国語	調教科全体の平均正答率を見ると全国より７．５％上回っている、更に新宿区の平均よりも３．３％上回る結果となった。昨年度よりも平均正答率が全国、新宿区よりも上回る結果であった。 調観点別正答率が、新宿区の平均をすべて上回っており、「関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」「知識・理解・技能」において全国の正答率を上回る結果となった。特に「書く能力」においては、全国を１４．３％、新宿区も９．１％と大きく上回っていた。 調四分位分布では、A層B層が全体の約７０％、C層D層が全体の約３０％である。 学授業における取組状況では、意欲的に取り組む児童が多い。書くことや言語事項の領域については、B評価からC評価の児童が多くいる。	・教科全体の平均正答率は全国、新宿区とも上回っているが、今後も日常の授業において、指導を意図的、計画的に行っていき、特に「言語についての知識・理解・技能」について学習内容の定着をより一層図る必要がある。 ・「関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」「知識・理解・技能」において、昨年度に引き続き今後も学習内容の理解の定着を深めていく必要がある。 ・漢字の学習については、C層D層の児童の底上げも含め、漢字自体の意味を考えながら、文脈に沿って正しい漢字が使えるように理解を深めていく必要がある。 ・意欲的に書く活動に取り組み、言語事項の内容を定着させるための具体的な支援や指導の工夫が必要である。	【年間計画・単元レベル】 ・課題である「言語についての知識・理解・技能」については、他の領域よりも時間を多めに設定し、基礎的・基本的となる既習事項の確認や新しい学習内容の定着ができるよう指導の工夫をする。 【１単位時間レベル】 ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・漢字の学習など、ＩＣＴ機器を積極的に活用することで、視覚化を図る。 ・「書くこと」領域の単元では、学習モデルを示すことで、児童が安心して、見通しをもって取り組めるようにする。 【その他の日常的な取組】 ・計画的に日記や漢字の書き取りの宿題を出すことで、書く能力や漢字を正しく書く力の定着を図る。 ・漢字の小テストを定期的に実施することで、児童自身の学習状況を知り、「漢字の読み書き」について習熟を図ったり、児童一人一人の個別指導に生かしたりする。 ・読書活動を推進し、文章に触れる機会を多くする。物語に限らず、様々な種類の本を読むよう促す。	【年間計画・単元レベル】 ・「言語についての知識・理解・技能」「書くこと」については、他の領域よりも個人の学習のまとめを友達同士で交流する時間を意図的に多く設定したことで、学習内容のさらなる定着を図った。 【１単位時間レベル】 ・毎時間の学習の振り返りを見ると、ねらいを明確にすることで、児童自身が学習の内容を理解しやすくなったり、身に付いた力を自覚しやすくなったりしている様子が見られるので、今後も継続していく。 ・漢字学習を中心にＩＣＴ機器を積極的に活用したことで、漢字を正しく書く力が少しずつ高まってきた。 ・「書くこと」の領域では、モデルを示して取り組ませたことで、自分の力で書くことができたという達成感を味わうことができていると思われる。 【その他の日常的な取組】 ・計画的に日記や漢字の練習の宿題に取り組ませ、漢字を正しく書く力や文章を書く力が高まるようにしている。日記については、継続的に書かせたことで、表現力が少しずつ豊かになってきている。 ・朝学習の時間に読書をさせる機会を多く設けたことで、児童がより多くの本に親しむことができている。	【年間計画・単元レベル】 ・「言語についての知識・理解・技能」「書くこと」について、友達同士で交流し合う時間を意図的に多く設定した。読み手を意識して表現方法を工夫したり、友達と相談して文章構成を考えたりと、言葉への意識をもち、使う語句を増やしていくことができた。 【１単位時間レベル】 ・毎時間の振り返りと学習のねらいを意識して取り組む児童の様子が見られるようになった。 ・ＩＣＴ機器を活用して漢字学習を行ったことで、書き順や意味を学級全体で正しく学ぶことができ、当該学年の漢字の理解はより深まった。 ・年度当初から、モデルを示して文章を書くことに繰り返し取り組んできたことで、「初め・中・終わり」の文章構成で文を書く力が身に付いてきた。 【その他の日常的な取組み】 ・家庭学習の課題として、日記や漢字学習を計画的に行ったことで基礎的な語句や学習内容の定着が見られた。 ・朝学習の時間を活用したことで、児童がより読書に親しむことができた。

	算数	調教科全体の正答率は７２．９％と全国平均を１２．３％上回り、新宿区平均を７．２％上回っている。また、観点別・領域別の正答率も、全て全国・新宿区の平均を上回っている。 調観点別・領域別に見ると全て全国・新宿区を上回った。観点別では特に「数量や図形の技能」(７８．４%)が大きく上回っている。また、領域別では「数と計算」(７５．９%)が大きく上回っている。 調四分位分布を見ると、A層が５１．７%と一番多いものの、C層、D層の合計が２２．４%と、全体の２割弱にあたる結果となっている。 学授業における取組状況を見ると、集中して課題に取り組み、問題を解決しようとする児童が多い。D層の児童も自力解決できなくても最後まで考えようと取り組む。「図形」領域での定規や分度器・コンパスを使っての作図に課題が見られる児童がいる。また、自分の考えを言葉や図、表、式などに表し、順序よく説明することを苦手としている児童も見られる。	・教科全体、観点別・領域別とも全国、新宿区を上回っているが、今後も全ての観点・領域で継続して学習内容の定着を図っていく必要がある。 ・「関心・意欲・態度」は６１．５%と、国語の８０．４%に比べて低いため、数学的活動の楽しさを感じられるように授業の工夫改善を図る。 ・四分位分布のC層(１３．８%)・D層（８．６%）の児童の底上げを図るために、個別指導や補充学習が必要である。また、A層（５１．７%）の児童に対してもより一層発展的な学習に取り組めるような指導が必要である。 ・「図形」領域での作図や、「量と測定」領域での自分の考えを図や表などを用いて表したり、順序立てて説明したりすることの学力の向上を図る指導が必要である。	【年間計画・単元レベル】 ・レディネステストだけでなく、日常の学習の様子や単元テスト、ベーシックドリルテストなどを参考にして習熟度別のクラスを決定することで、習熟の程度に応じた指導をする。 ・個別指導や補充学習を行うことで、C層とD層の児童の基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 【１単位時間レベル】 ・導入を工夫した授業や、毎時間のめあてを明確にした授業をを展開することで、児童の関心・意欲・態度が高められるよう図る。 ・習熟の程度によって、基礎的・基本的な習熟の問題に取り組ませたり、より発展的な問題に取り組ませたりするなどの機会を個別に設けることで、習熟の程度に応じた指導を図る。 ・多くの単元でＩＣＴ機器を積極的に活用し、視覚化を図ることで児童が理解しやすいようにする。(特に「図形」領域)また、自分の考えを表したり、説明したりする機会を多く設ける。 【その他の日常的な取組】 ・計算ドリルの宿題だけでなく、復習プリントの宿題を出すことで、児童が既習の学習内容に取り組み、理解の定着を深める機会を多くする。	年間計画・単元レベル】 ・習熟度別のクラス編成で授業を行ったことで、特にD層の児童について、レディネステストなどからつまずきを事前に把握し、実態に合った指導を行うようになっている。 ・個別指導や補充学習を行い、C層とD層の児童の基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることが概ねできている。 【１単位時間レベル】 ・毎時間のめあてを明確にした授業を展開していることで、児童が学習に見通しをもてるようになり、主体的に学びに向かう態度が高まっている。 ・児童の実態や習熟に合わせた課題を準備することで、より課題解決の実感をもたせられるようにしたい。 ・児童の理解を補うために、今後は特に図形の学習において、ＩＣＴ機器を積極的に活用し、視覚化を図る。 【その他の日常的な取組】 ・ドリル学習とプリント学習を並行して行ってきたことで、既習の学習内容の理解が進んだ。それにより、問題に集中して取り組む力や根気強く取り組む力が身に付いてきた。	【年間計画・単元レベル】 ・習熟度別の特性を生かしてどのクラスにおいても児童が主体的・対話的に学習できるようになってきた。また、実態に応じた指導を行うことができた。 ・D層の児童については、つまずきがある内容を個別に重点的に指導したり、繰り返し指導したりすることで、少しずつ学習内容の理解が定着してきた。 【１単位時間レベル】 ・毎時間の学習のまとめを記述し、発表する取り組みをしたことで理解が深まり、学習内容を定着させることができた。また、児童の意欲喚起につなげることができた。 ・児童の実態に応じた課題を用意したことで、児童が課題への苦手意識が減り、意欲喚起につなげることができた。 ・ＩＣＴ機器を活用し、自分の考えを発表したり、友達の考えを紹介したりすることで、他者意識をもち、意欲的に学習を進めることができた。 【その他の日常的な取組】 ・授業や家庭学習において、既習事項の復習を継続的に行い、D層の児童の学習理解の定着を図ることができた。
音楽	学 ２年生 ・意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ・拍の流れを感じ取りながら手拍子をすることができる児童と苦手な児童がいる。	・話を聞くときと活動するときのメリハリを付けることはできているが、拍の流れを感じ取り、リズムを覚えて手拍子をすることは苦手である。	・拍の流れを感じ取ったり、リズムを覚えて手拍子をしたりすることができるようになるために、リズムあそびを常時活動に取り入れる。	・拍の流れを感じ取り、４拍子や３拍子のリズムを覚えて手拍子をすることができるようになってきた。今後は覚えたリズムを打楽器の演奏に生かしていく。	・即興的にリズムを考え、手拍子をすることができるようになってきた。また、打楽器の基礎的・基本的な演奏の仕方が身に付いてきた。
	３、４年生 ・意欲的に学習に取り組む児童と学習に集中することが難しい児童がいる。 ・基礎的・基本的な技能が身に付いている児童と身に付いていない児童の差が大きい。	・話を聞くときと活動するときのメリハリを付けることができず、学習に集中することができていない児童が多い。 ・リコーダーの指づかいを覚えていない児童がいる。	・話を聞くときの姿勢や態度を身に付けさせるために、学習規律を徹底する。 ・リコーダーの基礎的・基本的な技能を身に付けさせるために、個別指導を充実させる。	・学習規律を徹底しているが、学びに向かう態度が身に付いていない児童がいる。今後は授業内容を工夫し、学習に集中する時間を確保できるようにしていく。 ・リコーダーの指づかいやタンギングが身に付いていない児童がいるため、個別指導の充実とともに随時、指導していく。	・学習意欲の向上に課題が残った。授業内容を工夫したり、言葉掛けをしたりしながら、児童の実態に適した対応をしていきたい。 ・鍵盤打楽器の基礎的・基本的な演奏の仕方が身に付いてきたが、引き続き個別指導を充実させ、技能の向上を図りたい。
	５、６年生 ・意欲的に学習に取り組む児童と学習に集中することが難しい児童がいる。 ・基礎的・基本的な技能が身に付いている児童と身に付いていない児童の差が大きい。 ・曲想の変化を感じ取り、言葉で表現することが苦手な児童が多い。	・話を聞くときと活動するときのメリハリを付けることができず、学習に集中することができていない児童がいる。 ・鍵盤楽器の基本的な指づかいが身に付いていない児童が多い。 ・曲想の変化を感じ取ることや歌詞の様子を想像することが苦手な児童が多い。	・学習に集中することができるようにするために、めあてや活動内容を明確にして指導していく。 ・鍵盤楽器の基礎的・基本的な技能を身に付けさせるために、個別指導を充実させる。 ・曲想の変化を感じ取ったり、歌詞の様子を想像したりすることができるようにするために、強弱や旋律などの変化を聴き取る活動を充実させる。	・授業内容を工夫し、活動にメリハリを付けることで、学習に集中することができるようにしていく。 ・鍵盤楽器の基礎的・基本的な技能が身に付いてきた。今後は技能を生かして、思いや意図を表現することができるよう指導していく。 ・グループ活動や全体指導を通して、曲想の変化を共有する活動を充実させる。	・授業内容や言葉掛けを工夫することで、学習に集中することができるようになってきた。 ・鍵盤楽器、鍵盤打楽器の基礎的・基本的な技能は身に付いてきた。曲想を生かした表現につなげることができるよう指導していきたい。 ・動画や学習シートを活用することで、曲想の変化を感じ取る学習を充実させることができた。

図工	学 ・新しく学習する道具や材料に関して、意欲的に取り組み、児童が自分自身の思いに合わせて表現活動をすることができている。 ・少数だが、学習に集中できない児童や、知識や技術の自信のなさから、アイディアはあるがなかなか表現していけない児童がいる。	・材料や用具を大切に扱い、使用したものをきちんと片付ける力を育てること。 ・対話的な鑑賞活動を通し、多様な表現があることを知り、表現する楽しさを感じさせること。 ・自分自身の思いを大切にし、自信をもった表現ができるようになること。	・ユニバーサルデザインの観点から図工室を整備し、片づけしやすいような環境をつくる。 ・造形遊びの時間を多く設け、体全体を使った表現活動も取り入れていき、表現する楽しさを実感できるようにする。 ・児童の多様な価値観を認め合う力を育み、対話による学びにつなげるために、鑑賞活動を充実させていく。	・使ったものを片付けるという意識が希薄な児童がいるので、班で協力して片付け、チェックをさせることで、意識を向上させる。 ・密の回避の視点から造形遊びの時間を設けることが難しく、それに代わるような共同作品や、題材の設定が必要になる。 ・授業中の鑑賞の時間の取り方や、対話の生まれやすい環境の設定など、課題があると感じる。	・図工室の整備に課題が残った。限られたスペースの中でも必要なものがすぐに取り出せる環境が必要である。また、班ごとの片付けは全員が協力するきっかけにはなったが、いつも動く児童は固定化していた。 ・造形遊びの時間は設けることができなかったが、題材によりダイナミックな動きで作品を作ることができた。 ・授業中の鑑賞や展覧会を通して、鑑賞活動の充実を図ることができた。友達の作品や異学年の作品をじっくりと観察し、作る様子を想像することで今後の創作意欲につながった。
特支	学 ・自己肯定感が低く、自信がもてない児童が多い。 ・読むことがたどたどしく、スムーズに音読できなかったり、字形を整えたり、マス目の大きさに合わせて字を書いたりすることが苦手な児童がいる。 ・感情の表現が苦手で、自分の気持ちを相手に伝えることができない。	・自己肯定感の低さから、いろいろな活動に意欲的に取り組めない。 ・読み書きの苦手さから、様々な教科で板書したり、文を書いたりすることに抵抗感が強い。 ・相手の気持ちを想像したり、自分の思いを適切に表現したりすることができず、友達とうまくかかわれない。	・スモールステップでの学習を通して、できた経験や褒められる経験を増やし、自信や達成感をもたせる。 ・児童一人一人の実態や特性に応じた課題を提示したり、読み書きプログラムを活用したりして、苦手意識を減らし、意欲的に課題に取り組めるようにする。 ・振り返りや気持ちの度合いを可視化する教材を使用し、自分の気持ちに気付かせる。小集団で人とのかかわる学習を通して、協力したり、相手の気持ちに気付かせたり、自分の考えを話したりできるようにする。	・スモールステップでの学習を通して、「できた」「分かった」という経験が増え、意欲や自信をもたせることにつながっている。 ・読み書きの苦手な児童に対して、タブレットや読み書きプログラムの学習を活用したことで、意欲的に取り組むことができた。 ・グループの学習では、友達と話し合ったり相談したりするなど、友達と関わる学習に取り組ませた。自分の考えを伝えたり、相手の意見を受け入れたりする様子が見られるようになっている。	・児童一人一人の実態に応じた課題を設定したことで、できることが増え、自信や意欲をもって活動に取り組める児童が増えた。 ・読み書きプログラム教材やタブレット端末の活用を通して、興味をもって学習に取り組むことができた。特に単語のまとまりを意識できるようになり、スムーズな読みにつながった。 ・小集団の活動では、友達とのかかわりを通して、自分の考えを伝えたり、相手の意見を受け入れたりしながら、協力して活動することができた。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　※分量は2ページ以上となってもよい。